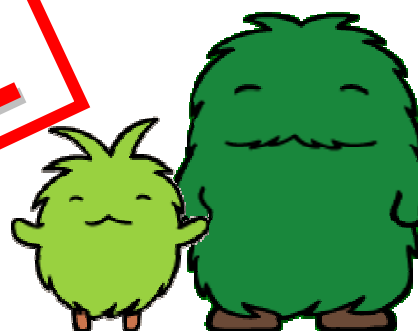


「愛・地球博」の成果・評価について (テーマの理解度・浸透度)

資料Ⅲ - 2



2005年9月22日

(財)2005年日本国際博覧会協会

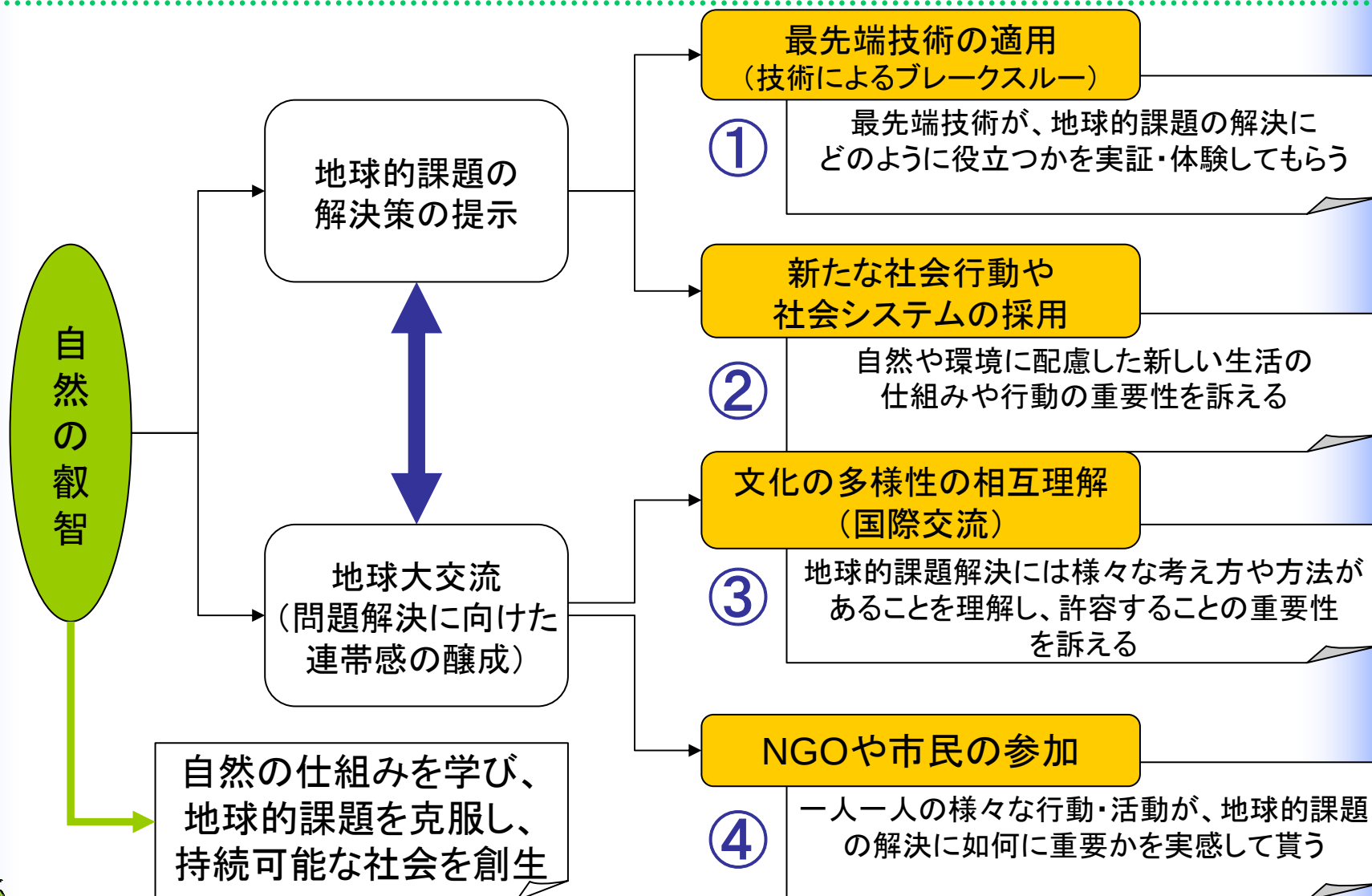


今回実施したアンケートの概要

調査名	調査対象	調査方法
ティーンエイジャー 来場者調査	「愛・地球博」に来場した、13～19才の 男女個人:671名 (※まだ中学1年生でまだ誕生日を迎えていない12才は便宜上13才としてカウント)	質問紙を用いた、 会場での対面式調査
一般来場者調査	「愛・地球博」に来場した、全国20才～69才の 男女個人:1,000名	インターネット調査
教職員調査	4月から6月に授業の一環で「愛・地球博」へ来場した、 愛知県内の小・中学校など709校 内訳: 小学校: 506校 中学校: 202校 適応指導教室: 1カ所	質問紙を用いた、 自記式アンケート 【調査実施機関】 愛知県教育委員会



アンケート対象者に対して提示した4つの軸



※参考 テーマを具現化した領域・分野

最先端技術の適用 (実験・体験)

- IT
(ICチップ入り入場券;
愛METE;
インターネット中継;
自動移動支援システム等)
- 先端映像システム
(レーザードリームシアター;
スーパーハイビジョン等)
- エネルギー
(新エネ発電システム等)
- 新交通システム
(IMTS; ITS; FCHVバス)
- 次世代ロボット
- 環境技術
(ドライミスト; バイオラング;
光触媒; 竹ゲージ
バイオマス食器等)

新たな社会行動や システムの採用

- ゴミの9分別
- エコマネー
- エコツアー
- P&R方式
- 森林体感プログラム
(森の自然学校;
里の自然学校等)
- 環境配慮建設
(環境アセスメント;
グローバルループ等)
- ユニバーサル
デザイン
- 自立移動支援
プロジェクト
- IT
(観覧予約システム;
インターネット情報提供;
サポートナビ、携帯情報
サービス等)

文化の多様性の 相互理解(国際交流)

- グローバルループ
- 外国館
(グローバルコモン等)
- 外国の食べ物
- 外国の物産品
(工芸品、お土産等)
- 外国の催事
(歌; 踊り等)
- ND
- フレンドシップ
- 愛・地球会議
- 地球平和
フォーラム等

NGOや市民の参加

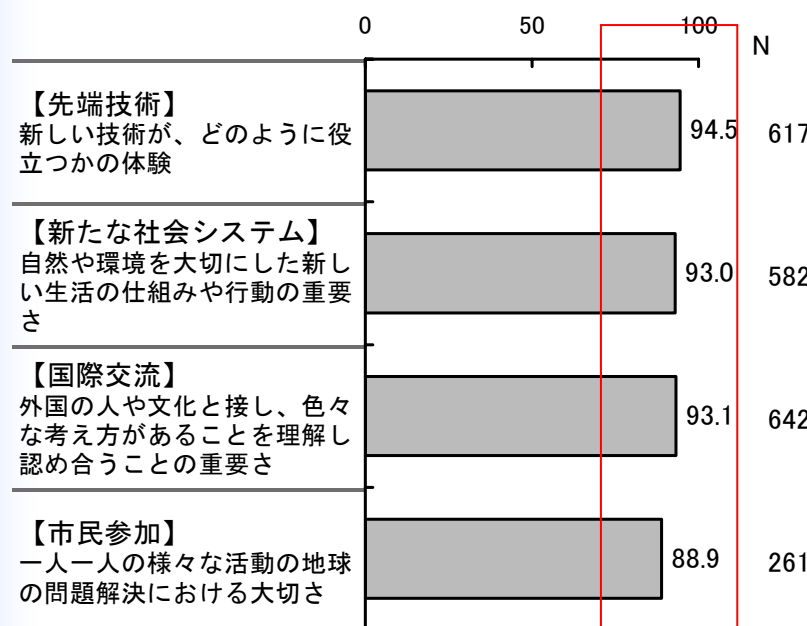
- 地球市民村
(NPO; NGOの出展)
- 市民パビリオン
- 海上広場
- 市民参加イベント
(愛知県ウィーク等)
- ボランティア活動



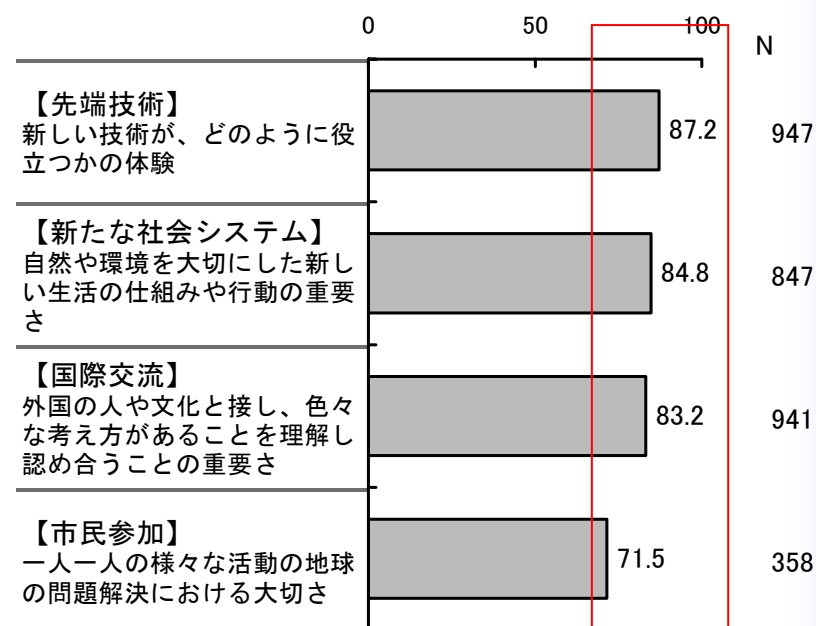
〔1〕提示した4つの領域に対する実感・理解度

＜4つの領域に対する、来場者の実感・理解度＞
（それぞれのことが来場を通じて感じられた割合）

ティーンエイジャー来場者調査



一般来場者調査



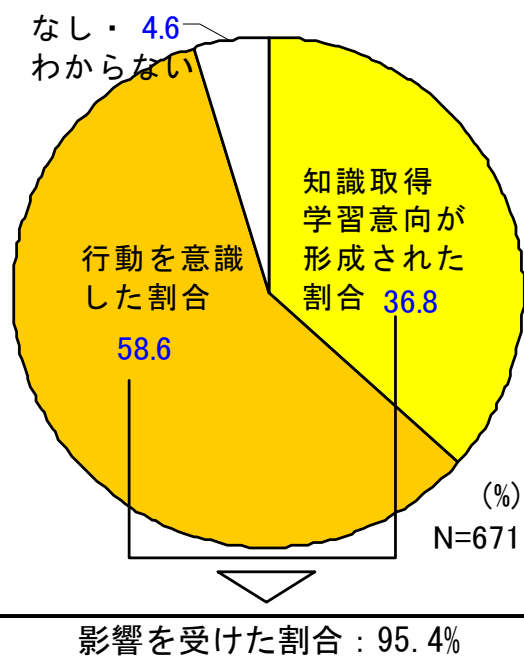
＜ティーンエイジャー＞＜一般＞それぞれの調査から実感・理解の値を抜き出して比較したもの



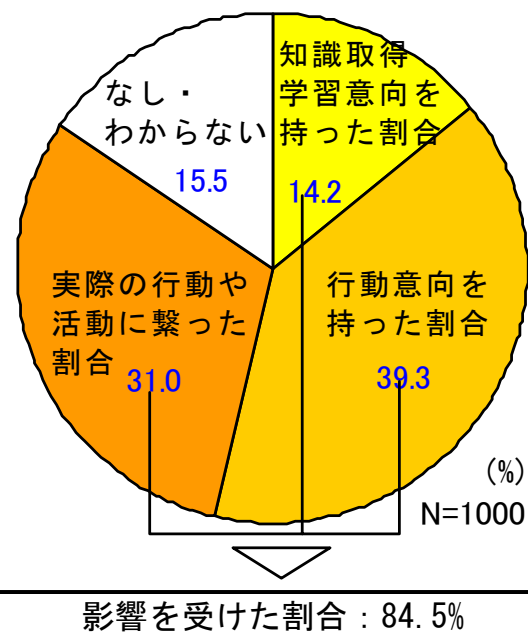
＜資料1＞（図3）＜資料2＞（図3）より実感・理解に関する値を抜粋

〔2〕愛・地球博来場後の考え方・行動の変容

ティーンエイジャー来場者調査



一般来場者調査

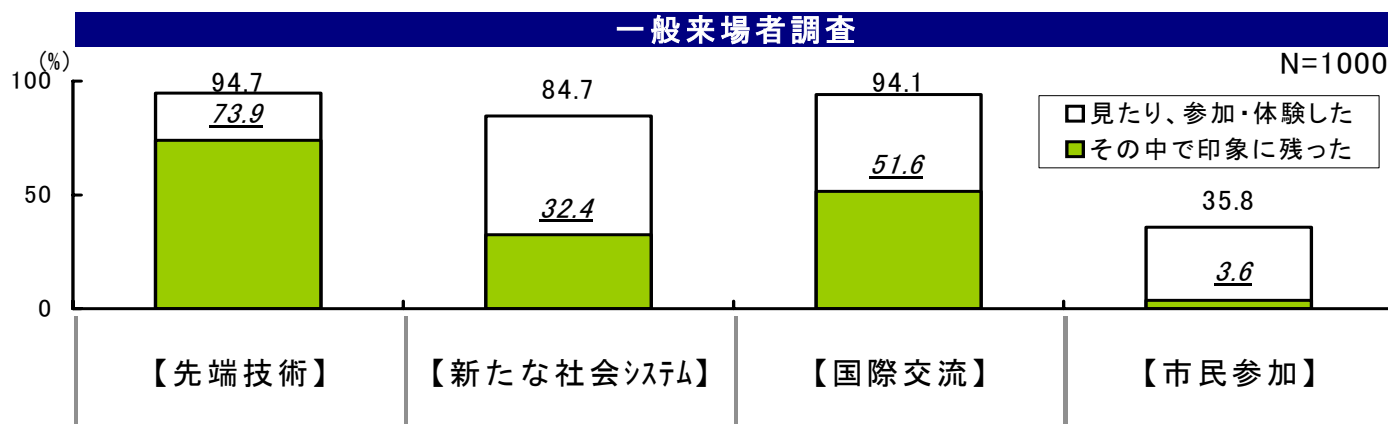
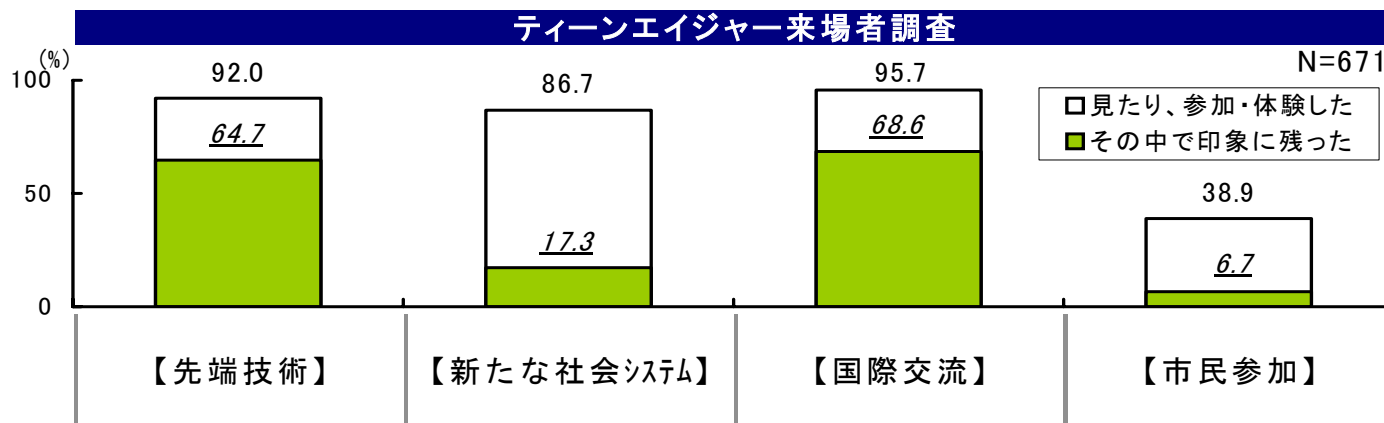


来場者の方々の多くは、「愛・地球博」に来場したことにより、「先端技術」「新たな社会システム」「国際交流」「市民参加」といった領域に、今後積極的に関与してみたいという意向を示している



<資料1> (図4) <資料2> (図4) より

〔3〕4つの領域毎での印象度

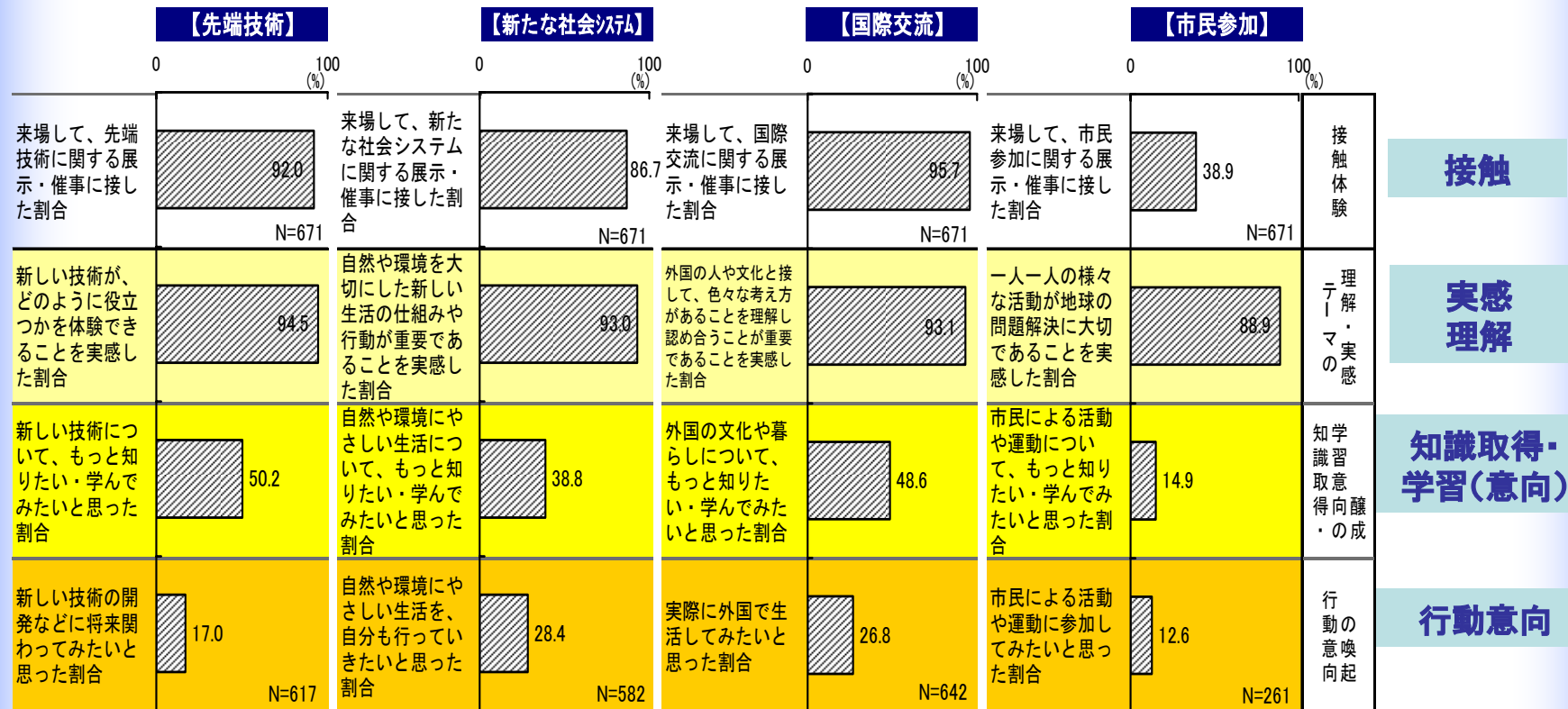


一般の来場者に比べてティーンエイジャーの来場者は、特に「国際交流」の領域が印象に残ったという値が目立つ



<資料1> (図2) <資料2> (図2) を比較

〔4〕＜ティーンエイジャー＞4つの領域への接触・理解・態度形成

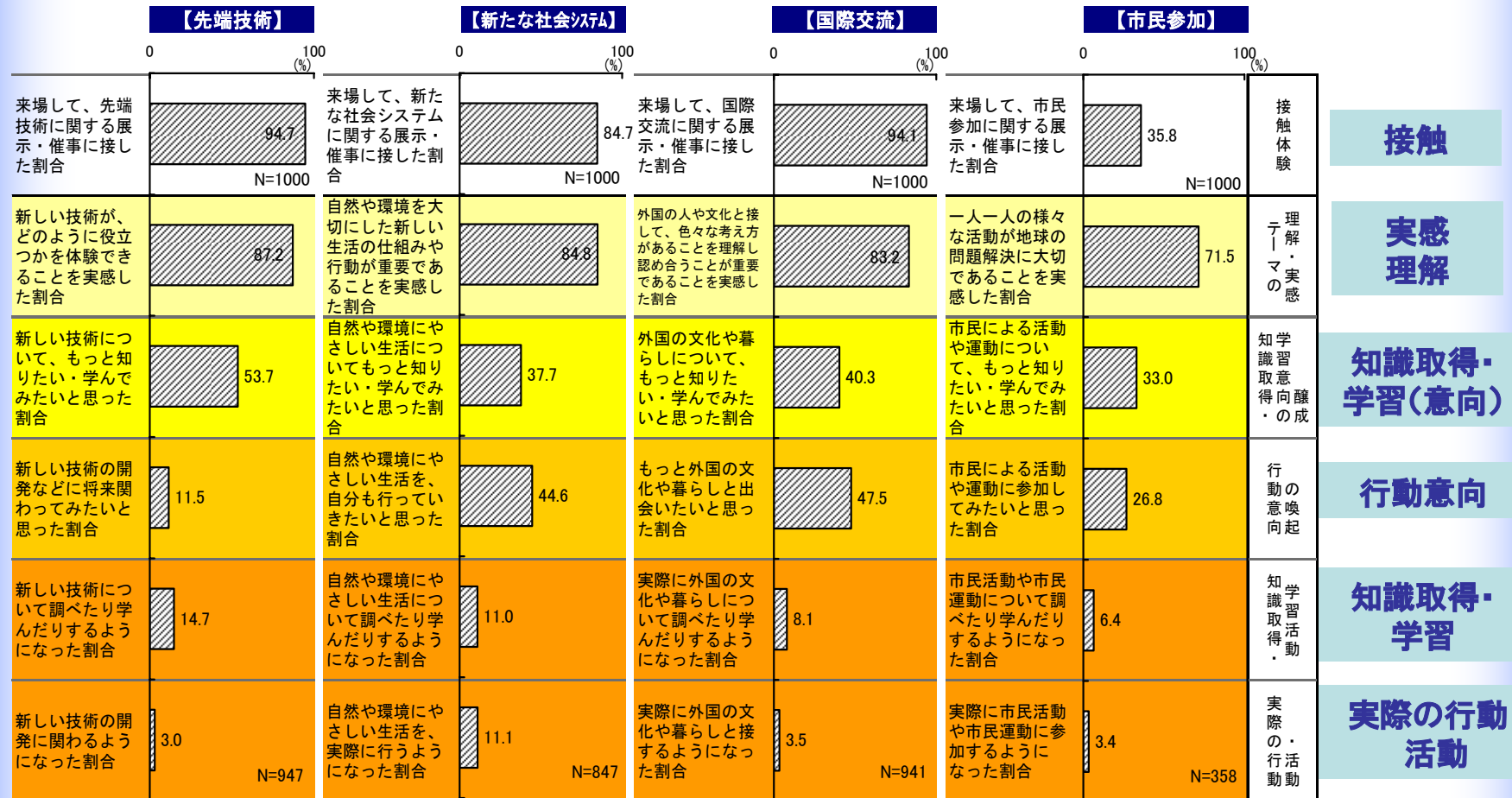


＜ティーンエイジャー＞ 実感・理解に着目すると、「先端技術」「新たな社会システム」「国際交流」「市民参加」のどの領域においても9割以上が実感・理解を示していることがわかる



＜資料1＞（図3）より

[4] <一般> 4つの領域への接触・理解・態度形成

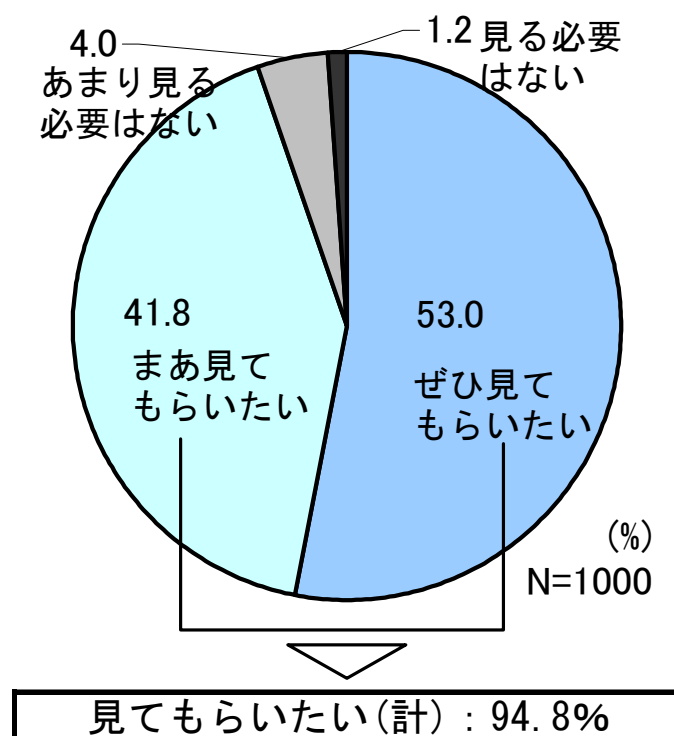


<一般> 実感・理解に着目すると、「先端技術」「新たな社会システム」「国際交流」「市民参加」の各領域において7～9割以上が実感・理解を示していることがわかる



<資料2> (図3)より

〔5〕＜一般＞次世代への観覧推奨意向



一般来場者の方々の9割以上が、この「愛・地球博」を次世代である10代の若者に「見てもらいたい」と答えている



＜資料2＞(図5)より

〔5〕＜一般＞次世代への観覧推奨意向

先端技術	232	国際機関（国連館/赤新月館）のパビリオン	18
環境、環境問題	171	マンモス・ラボ	16
外国及び外国の文化	148	ボランティア	11
外国のパビリオン	70	新しい社会システム・社会の仕組み	8
すべての内容/色々な内容	68	新エネルギー	8
自然や自然の大切さ・自然との共存	60	政府系のパビリオン	7
地球の現状・問題・未来など	42	市民活動・市民参加	7
企業パビリオン	37	森林ゾーン/自然体感プログラム	6
国際交流・触れ合い	29	瀬戸会場	5
ロボット・ロボット技術	28	高齢者・障害者などへの配慮	5
各自が興味を感じたもの・惹かれたもの	21	会場の雰囲気	4
ごみ・リサイクル	20	バイオラング	2
		その他の内容	93

次世代である10代の若者に「見てもらいたい」内容としては「先端技術」「環境、環境問題」「外国及び外国の文化」といった答えが目立った



＜資料2＞より

〔6〕教職員調査：実施概要

(財)2005年日本国際博覧会協会では、愛知県教育委員会が実施した下記の調査結果に関して、集計、分析を行った。

【調査名】

愛知万博に係る見学実施結果及び関連学習等への取組について

【対象】

4月から6月に授業の一環で「愛・地球博」へ来場した、
愛知県内の小・中学校など709校

内訳： 小学校： 506校
 中学校： 202校
 適応指導教室： 1カ所

【調査実施機関】

愛知県教育委員会

【調査方法】

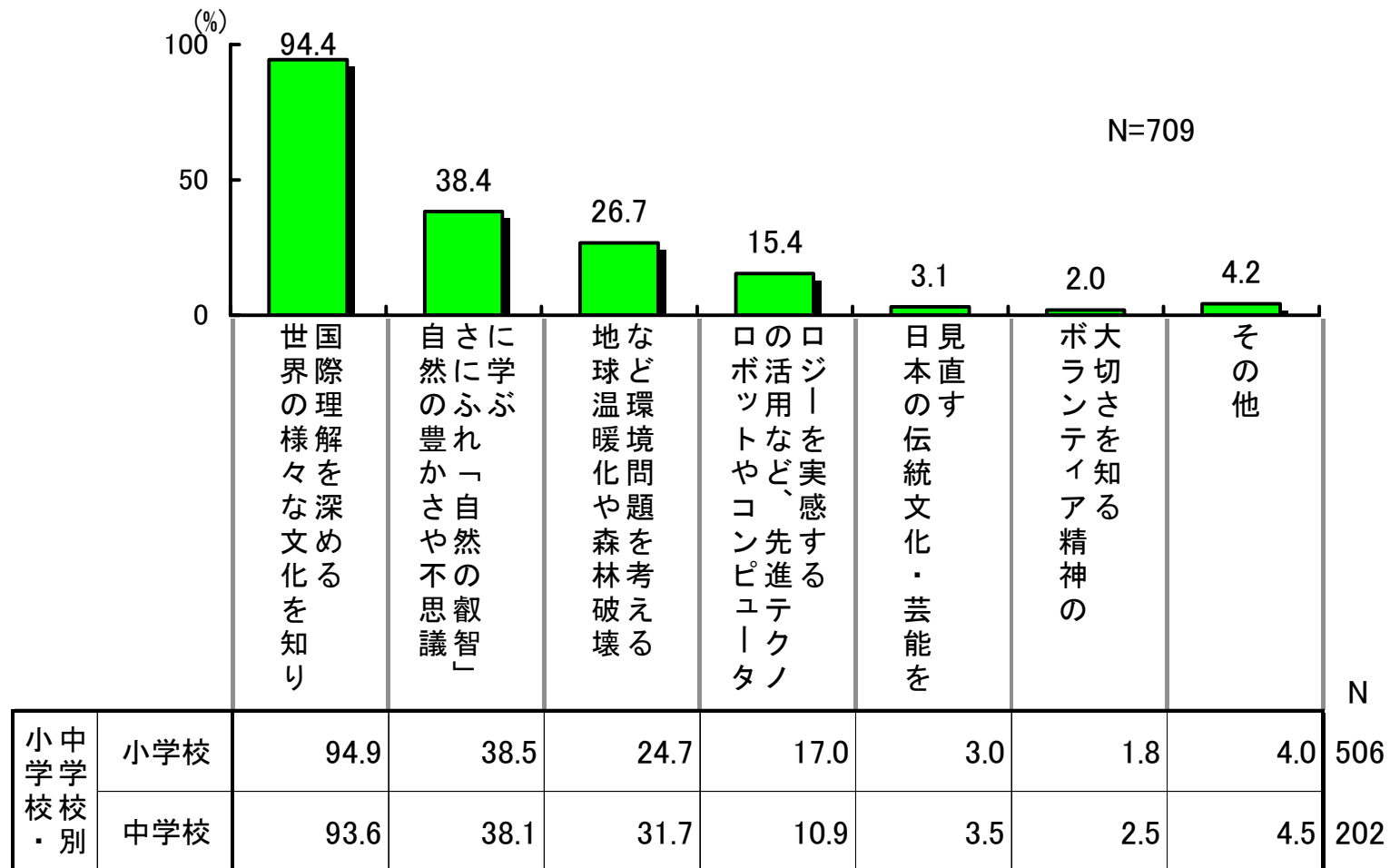
質問紙を用いた、自記式アンケート

【分析目的】

愛・地球博に来場した小中学生に対する影響を見るため



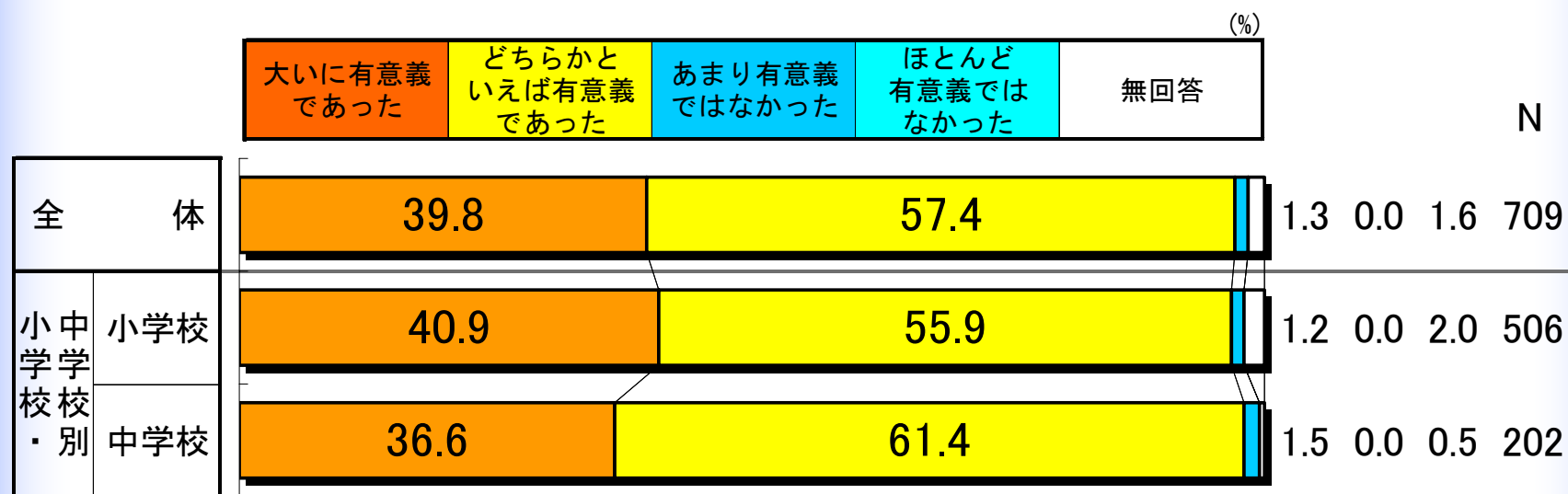
〔7〕 愛知万博の見学にあたり、設定したテーマ



国際理解を深めること、自然の叡智に学ぶことが主な見学テーマとなっている。



〔8〕 愛知万博の見学に対する評価



ほとんどの小中学校で愛知万博の見学は有意義だったとされている。



〔8〕 愛知万博の見学に対する評価

	(件)
① 国際理解、国際交流ができた	448
② 環境教育に役立った	116
③ 学校ではできない体験ができた	83
④ グループ行動を通じて自主性や仲間意識を育てられた	67
⑤ 地元で開催された歴史的なイベントに参加できた	43
⑥ 先端技術に触れることができた	42
⑦ 興味・関心が広がった	37
⑧ 博覧会の見学を楽しめた	27
⑨ 総合学習に役立った	26
⑩ 博覧会の雰囲気を味わえた	23
⑪ 目的や計画を持って見学に取り組めた	22
⑫ 話題の展示やパビリオンを見学できた	21
⑬ 家庭で行けない子どもも見学できた	7
⑭ 子どもたちが感動した	6
⑮ その他	5

	(件)
① 人が多く混雑した	4
② 見学できる時間が短く、パビリオンが見られなかった	3
③ 展示内容が低学年には難しかった	1



見学が有意義であった理由は、
国際理解、国際交流ができたことと環境教育ができたことが中心。

〔9〕 見学後の児童生徒の変容

	(件)	全 体	小学校	中学校	適応 指導教室
① 環境や外国文化に対する意識や関心が向上した		336	265	71	0
② 博覧会に対する関心や再来場意向につながった		105	79	26	0
③ グループ活動や万博への参加によって、人間的に成長した		77	56	20	1
④ 授業や学校での活動に結びついた		66	52	14	0
⑤ その他		8	8	0	0

多くの学校の児童・生徒が愛知万博の見学後、環境や外国文化への関心を向上させた。



〔10〕 見学が有意義だった理由(抜粋)ー①

国際理解、国際交流ができた

- ・「世界を知る」という点からいうと、子供達にとってはとても新鮮で効果的であった。国際協調の意義が大いに感じられた。
- ・6年生が総合的な学習の時間で国際理解をテーマとしているので、その教材としても有意義なものであった。
- ・グローバルコモンなどの見学を通じて、諸外国の生活の様子や文化を知ることができ、国際理解を深めることができた。
- ・パビリオンの展示はよかった。外国のパビリオンの見学で、本やパビリオンだけでは伝わらない国の様子もわかり、よかった。外国の文化に触れることができた。パビリオンの展示はよく、子供達も感動していた。
- ・外国のこと、国連のことについて学習でき、外国の文化に触れることができた。
- ・外国の文化に興味を持つきっかけとなった。外国の文化や生活について、実物や人を通じて体験できた。外国の文化や生活に目を向け、日本との違いを知ることができた。
- ・外国人は全て違うということや、国柄の違いなどを直接理解でき、外国の文化を身近に体験できたことが有意義だった。
- ・各国の文化や産業など、美しいレイアウトの中、効果的な学習ができた。また外国の人々と触れ合う機会も多く取れ、生きた国際交流ができたから。
- ・国際的な環境に触れ、異文化を体験できた。児童の興味・関心が高かったので、総合的な学習として適切に取り組むことができた。
- ・暑い国、寒い国、肌の色、目の色、髪の色など地球上には色々な国や人が存在するということに改めて気づくことができた。
- ・色々な国の文化に触れることができた。総合的な学習として単元化し行えた。色々な国・文化があること、その違いがあることを知ることができた。
- ・世界には色々な国があり、色々な人がいて、色々な言葉があるが、心は通じることを実感できた。色々な国のことがわかり、少しではあるが体験することもできた。
- ・世界をこれほど身近に感じられる機会はまたとなく、見学後も万博で学んだことを基に外国について調べ続けることができた。学年によっては、外国の文化や自然環境を日本と比較することから、「世界の中の日本」を見直す学習ができた。
- ・様々な国の自然や文化に触れ、外国に興味を持たせることができた。これからの世界のあり方を考える一助になった。
- ・これを機会に環境や国際理解について調べたり、考えたりすることができた。特に外国人との触れ合いをすることができ、多くの生徒が「満足」と答えた。
- ・パビリオンによってはその国の特色がよく表れており、外国の文化習慣を理解することができた。世界の様々な文化を知り、国際理解の意識が深まる上でよい動機付けになった。
- ・各国の珍しい文化、産業などに触れることができたから。世界の最先端技術や自然、環境を考えて作られた施設を見学することができたから。
- ・世界の様々な国々の文化を知ることができた。各パビリオンでのスクリーンの映像を見て多くの生徒が感動していた。
- ・世界的な万博を見られた。世界のパビリオンが見られた。40分、60分と待って見学したが、それにふさわしい内容であった。



〔10〕 見学が有意義だった理由(抜粋)ー②

環境教育に役立った

- ・「自然の叡智」をテーマとする愛知万博を見学することにより、地球規模の環境について体験的に学ぶことができた。
- ・エコ・キッズツアーに参加し、環境によい仕組みを知ることができた。
- ・環境にやさしい乗り物を体験したり、自然の素晴らしさを映像を中心に体験したりして、地球環境の大切さを感じることができた。
- ・環境学習の一環として取り入れ、この万博の環境に配慮した工夫を学び、これからの学習・生活に生かそうと意欲を持つことができた。地球環境の今ある現状を、小さな子供なりに聞き、感じ取ることができた。
- ・環境問題への我が国の取り組みの一端を見ることができた。
- ・子供達にわかりやすく環境問題について理解させることができた。
- ・各パビリオンを見学することで、自然の豊かさや不思議さに触れることができた。また地球温暖化や森林破壊などの環境問題について考えるきっかけとなった。

学校ではできない体験ができた

- ・「愛知お祭り大乱舞」へ出演し、自作の踊り「よさこい庭野」を発表できたこと。保護者、祖父母など50余名が来てくれ、子供と共に見学してくれたこと。
- ・「春分の日」にブラスバンドやバトンの児童が参加したり、地域の太鼓クラブの児童が親子で参加したりすることができた。
- ・5年生の環境学習、6年生の国際理解学習の場として体験的な学びを深めることができた。多様な施設があり、各学年それぞれの視点で見学できた。
- ・オーストリアナショナルデーという国際交流に参加できたから(6年)。インドネシア館のスクール体験に感動していた(1年)。
- ・キッズボランティアで万博のスタッフとして行動することができた。
- ・ゴミの分別、迷子ワッペン配布、ベビーカーの貸し出しなど、6年生がボランティア活動に参加できたこと。
- ・ナショナルデーに参加し、公式行事を体験できた。短時間ではあったが、見学計画をきちんと実施できた。
- ・「フィンランドの日」(フレンドシップ事業)、「小原の日」の2日間とも全校上げてその日を盛り上げることができた。2日間の班別自由行動の時間を有効に利用して、見学の目的としていた国際理解や環境問題について考えることができた。
- ・旧下山村のカザフスタンのナショナルデーに参加し、披露して頂いたカザフスタンの伝統的な音楽や踊りが大変印象に残り、異国のことについて知りたいという関心を持つことができた。パビリオン見学についても学習の目的に多少迫ることができた。



〔10〕 見学が有意義だった理由(抜粋)ー③

グループ行動を通じて自主性や仲間意識を育てられた

- ・ グループ行動をして友達と協力して見学することを体験できた。
- ・ 異学年の縦割り班での活動により、異学年同士の触れ合いを深めることができた。
- ・ 公衆の場でグループ見学することで、グループ行動の楽しさと、約束を守ることの大切さを学ぶことができたと思う。
- ・ 子供達が自分達で計画して見学するなど進んで学習に取り組めた。
- ・ 低高のペア学年で午前を過ごし、午後は学年が班に分かれて希望する場所の見学ができた。晴天で充分に見学できた。
- ・ グループごとの分散学習でメンバーと協力して計画を立てたり、見学をしたりできた。

地元で開催された歴史的なイベントに参加できた

- ・ 何十年に一度の万博に参加でき、1人1人の記憶に残すことができた。瀬戸愛知県館では、6年生は自分の作品を見ることができた。
- ・ 国際博覧会を見学できる機会は、生涯の中で何度もあることではないので、貴重な体験になった。
- ・ 身近で行われる万博を見ることができ、機会が少ないと思う。経済的な理由で家庭では行けない子もいると思うが、公費で見学できたことは子供達に貴重な体験をさせることができたと思う。
- ・ 地元愛知で行なわれている世界的な行事に参加でき、他国への関心が持てたと同時に愛知を見直すきっかけとなった。
- ・ 地元で開催された万博を同級生と参加・見学できたということだけでも将来思い出に残り、有意義だと考える。

先端技術に触れることができた

- ・ マンモス見学、ロボットや映像体験により、未来への夢や希望を持つ貴重な体験となった。
- ・ 最新の先端技術の素晴らしさを感じることができた。
- ・ 世界の文化やロボット等の先進テクノロジーを楽しみながら実感することができた。
- ・ 企業パビリオンで日本の技術の高さに触れられたことは意義のあるものであった。
- ・ 時代や技術、流行の一番進んでいる部分を生徒に見せることができた。



〔10〕 見学が有意義だった理由(抜粋)ー④

興味・関心が広がった

- ・外国や異文化に対する興味が高まり、調べてみようという姿勢が見られるようになった。
- ・最新の技術や外国の文化に触れることができ、関連した学習への興味・関心が高まった。
- ・子供達が色々な国について話している様子から万博への関心がさらに高まったようだ。
- ・子供達の見学意欲、国際感覚が広がった。
- ・意欲的に各パビリオンを回り、世界の国々や自然環境について興味を持つことができた。
- ・環境や最新技術についても関心を持つ生徒もいた。
- ・貴重な文化遺産や外国の文化に触れることができ、生徒個々の視野が広がり、興味・関心が増した。
- ・今まで知らなかった文化に触れることができ、興味・関心を持つことができた。話題になっている博覧会を直に見ることで見識を広げることができた。
- ・色々なパビリオンを見学し、興味・関心の幅が広がった。

博覧会の見学を楽しめた

- ・マンモスの見学やモリゾーキッコロメッセ、外国パビリオンでの体験を「もう一度行きたい」と作文に書く児童が多く、楽しめた。
- ・雨天ではあったが、見学後の児童の感想を見ても「行ってよかった」「面白かった」「もう一度行ってみたい」などの意見がほとんどであり、満足したものが多かった。
- ・会場の一部しか見学できなかったけれど十分に満足していたので、もう一度行きたいという意見が多かった。
- ・子供達が楽しみにしていて、進んで見学計画を立てた。また見学後の感想を多く発表し、充実した時間を過ごしたことがわかった。
- ・子供達なりに各パビリオンの人達と積極的に触れ合い楽しく過ごすことができた。
- ・子供達はみんな「行ってよかった、楽しかった」という意見が大半だった。
- ・子供達も楽しんでいだし、集団行動の学習となった。



〔10〕 見学が有意義だった理由(抜粋)ー⑤

総合学習に役立った

- ・「世界楽しさ発見」「英語で話をしよう」など総合学習に役立った。
- ・初めての万博見学で児童達は喜んでいて。国際理解を深める施設などがあり、「総合的な学習の時間」に役立てることができた。
- ・総合学習で環境問題に取り組んでいるので今回の万博のテーマはピッタリで学習の補助として役立った(4年)。
- ・総合学習のヒントになることが沢山あり、学習を効果的に進められたり、関心を高めたりすることができた。
- ・総合的な学習の一環として、環境とリサイクル、国際理解の関心を高めることができた。
- ・本校の総合的な学習のテーマである国際理解、環境ボランティアにふさわしい教材になった。
- ・総合的な学習で環境について調べたことを確かめることができた。外国の人や産業などについて触れるよい機会だった。普段見ることのできないものをじっくり見学することができた。
- ・総合的な学習の一環としてテーマを持って見学に参加したため、有意義な情報収集の場として活用することができた。

博覧会の雰囲気味わえた

- ・国際博覧会という大きなイベントの雰囲気をつかむことができた。
- ・万博に行ったという経験。雰囲気を味わうことができた。
- ・万博の雰囲気を十分に味わい、楽しむことができた。
- ・万博の雰囲気を満喫できた。
- ・万博の雰囲気を味わい、環境。について考えることができた。

目的や計画を持って見学に取り組めた

- ・交流校のために調べ、教える活動をする事ができ、道徳面でも子供達がやってよかったという実感を持つことができた。
- ・万博の見学後、全校児童に感想文を書かせたが、それぞれの年齢に応じて万博の内容を掴んでおり、意義のある行事であったと実感している。
- ・各学年とも課題を持って見学できた。1年：社会：「色々な国を調べよう」。2年：英語：「多くの人々と英語で会をしよう」。3年：美術：「色々な国の国旗の模様を調べよう」。
- ・事前に万博についての学習を行なったので、班別研修が予定通り実行でき、生徒の満足度が高かったため。
- ・準備期間が短かったため、調べ学習がうまく進められなかったが、学校全体で共通課題を持って学習が進められ、見学することができた。



〔10〕 見学が有意義だった理由(抜粋)ー⑥

話題の展示やパビリオンを見学できた

- ・「サツキとメイの家」の見学ができ、楽しい時間が過ごせた。
- ・マンモスの巨大さに子供達は圧倒され、喜んでいて。ロボットショーを子供優先に見せてもらえてよかった。児童にもわかりやすいパビリオンや班活動が行いやすい状況であった。
- ・マンモスラボの見学で感動した児童が多かった。
- ・企業パビリオン、グローバルコモンなど、多くの情報を一度に見学・体験することができたから。
- ・近い会場内の滞在時間が多く取れ、人気パビリオンにも入場できたり、計画通りに見学できたりして、学習としての目標が達成できた。
- ・あまり混雑しておらず、多くのパビリオンを見学することができた。1年生についてはグローバルハウスを優先的に見学することができた。学年当初に各学年の課題を優先的に把握することができ、今後の宿泊行事等にいかすことができる。

家庭で行けない子どもも見学できた

- ・家族で連れて行ってもらえない児童が見学できたから。
- ・家庭から行けない児童も全員参加することができた。
- ・家族で万博に行けない生徒も見学ができた。

子どもたちが感動した

- ・自然体験やロボットとの触れ合いに大きな感動を得ていた。
- ・パビリオンを見学することにより、生徒の環境に対する考え方や生き方に直接的に影響を与えた。外国館のみの見学としたが、その展示に多くの生徒が感動した。
- ・目的のパビリオンが見学でき、感動している生徒がいた。



〔10〕 見学が有意義だった理由(抜粋)ー⑦

その他

- ・ここ数年、行事精選、授業時間確保のため、社会見学や遠足がカットされていたが、万博見学でこういう時間が持てたこと。
- ・入場料やバス代の補助があったため、少ない費用で見学できた。
- ・遊びと参加ゾーンでゆっくりと昼食がとれた。
- ・学年ごとに行ったので目的の場所を選択しやすかった。
- ・思ったよりスムーズに入場でき、十分な見学時間を確保できた。



〔11〕 見学が有意義ではなかった理由(抜粋)

人が多く混雑した

- ・ 児童にとって有意義なパビリオンはたくさんあったと思うが、あまりにも人が多すぎてどのパビリオンも長い行列で見学がほとんどできなかった。
- ・ 人ゴミで充分パビリオンが見られない。昼食場所が指定のため、計画段階で、見学できる範囲が限られてしまう。
- ・ 大変な混雑で充分な見学ができなかった。ゲートでの入場で時間がかかりすぎる（駐車場から入場まで1時間）。
- ・ 当日12万人強の入場者であったことに加えて、駐車位置の悪さもあり、入場までの時間が相当かかり、計画的に見学の予定を立てながらも時間にゆとりがなかった。

見学できる時間が短く、パビリオンが見られなかった

- ・ バスの移動時間と応援の時間が長く、子供達が有意義に過ごす時間が短かった。パビリオンをほとんど見ることはできなかった。
- ・ 天候が悪く、見学を予定した施設を見学できなかった。雨天順延できなかった。晴天ならば見学も多くできたと思う。
- ・ 時間がなくて企業館の見学ができなかった。食べることができなかった。

その他

- ・ 高学年については有意義と思うが、低学年にとっては内容が難しい。また人が多すぎて、近くの適当なところで過ごした方が有意義と考える。



〔12〕 見学後、児童・生徒に見られた変容(抜粋)ー①

環境や外国文化に対する意識や関心が向上した

- ・「サツキとメイの家」を見学した。昭和30年代のものをみてすごく感激し、その当時の生活に興味・関心を持った。外国館を見学し、外国の文化についての関心が高まった。環境についての意識が向上した。
- ・1・2年は世界には色々な国があり、日本とは色々な面で違うということを感じ取った。3・4年は自然に対する目が少し広がった。5・6年は昔ながらの日本文化のよさを実感し、今の生活を見つめ直し始めた。
- ・1年生は外国の文化や人に触れ、世界が多様であることに驚いていた。5年生はボランティア活動について関心を持つことができた。3年生は世界各国の文化に直に触れて感動し、世界の国に関心を持つようになった。
- ・6年生は特にナショナルデーに参加したこともあり、フレンドリーに接してもらえて、外国人に対して親しみが増した。また言葉が通じなくても交流ができることを知った。
- ・キッズエコツアーに参加した児童もあり、環境への関心が高まった。世界の国々のパビリオン入館を通して、外国への興味を持つことができた。今回の見学をきっかけに、家族で再び見学したいと思った児童がいる。
- ・愛知万博関連の話題、及び環境問題、あるいは国際理解関係の話題などが日常生活において多く聞かれるようになった。
- ・異文化に触れ、諸外国について関心が高まった。ゴミの分別、リサイクル等、環境を意識する様子が見られるようになった。
- ・外国館を実際に見学することにより、さらに外国について調べてみたいという意欲が高まった。たくさんの人が来場する人のために、色々な心遣いをして働いていることに気づいた。人間が人のために、環境のために、地球のためにやさしくなれることに気づいた。
- ・外国に対する興味・関心が高まった。ニュースなどで外国の事が話題になると、そのことが児童の中でも話題になるようだった。
- ・外国のことに興味を持ち、外国の本を進んで読むようになった。科学技術の素晴らしさを話題にするようになった。外国名を地図帳で調べるようになった。
- ・外国のパビリオンでその国の言葉を学んだ児童が、もっとその国の言葉を知りたがったり、その国の文化に興味を持ったりした。
- ・外国の言葉や生活の様子、自然に興味を持ち、図書室の本を見たり、読んだりする子がいる。ロボットや食文化に興味があった。
- ・外国の国名や人々に興味を持つようになった。パナナの茎で作った紙と和紙の違いに興味を持ち、和紙製作にも意欲的に取り組んだ。交流のあった外国館の方とこれからは何らかの交流を続けていきたいと意欲を持っている。
- ・外国の国名をよく口にするようになり、興味を持つようになった。新聞やニュース番組など外国に関する事柄にかかわる会話が增えた。新聞をよく読むようになり、日記など万博の話題が増えた。グループ活動が上手になった。
- ・外国の人々や文化などに直に触れ、外国に対する興味・関心が高まった。日本赤十字パビリオンや愛知県館等の環境に関する展示やアトラクションから環境に対して関心が高まり、総合的な学習の時間や社会科・理科等の時間を通じて環境について学習する内容が増した。
- ・外国館の見学をきっかけに、外国に対する興味を持つ児童が増えた。英語活動で学んだことを試してみようと外国の人に話し掛ける児童が見られた。しかしうまく会話できなかったことから、もっと英会話を頑張ろうという気持ちを持つ児童が見られるようになった。



〔12〕 見学後、児童・生徒に見られた変容(抜粋)ー②

環境や外国文化に対する意識や関心が向上した【続き】

- ・ 外国人や外国の文化に接することができた。実際に見たり、触れたりと普段では味わえない体験であり、英語活動にも進んで参加しようとする姿勢が見られるようになった。
- ・ 帰校後、外国館で出会った人との挨拶を思い出し、外国語に興味を示したり、展示されていた民俗楽器の名前や音色を知りたがるなどの態度が見られた。
- ・ 興味ある国について、もっと調べたいと考えるようになった。「世界に一つだけのハガキ作り」を体験したことにより、自分の作ったハガキをいとおしむ姿や父母に伝えながら自分の頑張りを認めてもらえたことを報告する姿が見られた。
- ・ 国の名前などに興味・関心を持つ児童が増えた。万博関連のニュースに興味・関心を持つことにより、一般のニュースにも関心を持つようになってきた。特に高学年において環境問題や自然保護に関心を持つ児童が増えた。
- ・ 環境問題に目を向ける子供が見られるようになってきた。世界の様々な文化を知ることができ、国際理解に関する意識が芽生えてきた。
- ・ 小さな国でも、その国の様子を知りたいという気持ちを持つ児童が増えた。外国の文化に対して親しみを持ったようだ。地球環境について、いくつかの提案を聞くことができた。
- ・ 他の国（ドイツ、ギリシャなどの見学したパビリオン）についての興味が深まった。地球温暖化について目を向け、自分達で努力しようという気持ちが芽生えた。
- ・ 多くの国があることがわかり、外国に興味を持つようになった。外国のことについて興味を持ち、新聞や本などから外国について調べたり、話題にするようになった。
- ・ 地球上には様々な国、様々な人種がいて、皆同じ人間で、手を取り合って生きていくべきだ、そんな広い視野が育った。
- ・ 展示内容を思い出した「水を大切にしないで」「グアテマラの展示にあったよね」等の会話が聞かれるようになった。またキャラクターに愛着を感じて絵を書いたりしている。
- ・ ゴミの問題について、これまで以上に身近な問題としてとらえるようになった。世界の国々のことが話題になった。
- ・ これまで、外国に対してあまり関心を持たなかった生徒も、この愛知万博の見学を通して、外国の文化や風習、自然といったことに関心を持つようになった。特に、東浦町のフレンドシップ事業相手国であるケニアについては、生徒全員にケニアコーナーの見学をさせたこともあり、生徒にケニアに対する強い関心が生まれた。
- ・ 各国のあいさつを事前に調べた生徒は、見学の際、現地スタッフにあいさつ等をしてコミュニケーションをとっていた。より多くの国に関心が持てるようになった。各国の自然、技術や文化等に強くひかれたようだ。日本のよさを再認識できたという生徒の声もあった。発展途上国で貧しい暮らしをしている写真を見た生徒は、日本に生まれたことへの意味をレポートにまとめることができた。
- ・ 世界の国々が環境問題に取り組んでいることを知り、自分の生活を見直したり、自分達でできること（境川の浄化活動、アマゾンの植林）について考えることができた。外国の人々と接し、互いに理解し合うことの大切さを再認識した。



〔12〕 見学後、児童・生徒に見られた変容(抜粋)ー③

博覧会に対する関心や再来場意向につながった

- ・ 家族で再度万博を訪れたいと考えた児童がいた。テレビ・新聞などから、万博で見学した国に関連する記事があると関心を示すようになった。
- ・ 家族等、別の機会に見学する時の注意点に気づけた。万博に対しほとんど興味がなかった子も話題に出すようになった。
- ・ 作文の中には、もう一度行きたいという希望を持つ子供も多かった。「知りたい」「体験したい」という意欲は高まったと感じる。
- ・ 万博に再度行きたいと思う子供がたくさんいた。
- ・ 万博に関する報道に対していっそう関心を示すようになり、家庭においても万博のことがよく話題になるようである。
- ・ 万博に対する関心が高まり、家庭からも再度出かけたり、新聞、テレビ等の情報を収集してきたりしている。
- ・ 万博に対する関心が高まり、話題が多くなった。家庭でも見学しようという意欲が高まった。
- ・ 見学後、もう一度行きたいと言う児童が多く見られた。
- ・ 万博見学後も色々体験したり、調べたりしようとする意欲が高まり、何回も訪れる児童が増えた。
- ・ もう一度家族と行って、再びここを見学したいとか、今度は違ったところや外国のパビリオンに行こうという声が聞かれた。
- ・ 最初は行きたくないといていた子供も「また行きたい」という言葉を聞くことができた。外国人との触れ合いをまたしたいという声が多くなった。
- ・ 全期間入場券を買い、何度も見学に行く生徒が増えた。
- ・ 万博に対する関心が高まり、再度充分な見学をしたいと考える生徒がほとんどになった。



〔12〕 見学後、児童・生徒に見られた変容(抜粋)ー④

グループ活動や万博への参加によって、人間的に成長した

- ・ 6年生はボランティア活動で人との触れ合いや接し方を体験し、自信をつけた。
- ・ 5・6年生は高学年としての自覚が高まり、自信に満ちた言動が見られるようになった。
- ・ グループごとに行程を決めたり、実際に見学したことにより、子供達の中に協力しようとする態度が生まれた。
- ・ ボランティアを行ったことで人のために働くことに積極的になった。総合学習で国際理解について取り組んだり、家族で万博に出かけた時に杖をついている人に「頑張りましたね」と声をかけることができた。
- ・ 一部の児童が外国の人にインタビューをすることができるようになった。
- ・ 何人かの児童がボランティアは楽しいと実感することができた。
- ・ 広場一杯の人々の前で、全校児童が心を一つにして納得のいく発表ができたことにより、児童の動きに自信らしきものが見られるようになった。
- ・ 時間やルールを守ろうとする態度が育った。高学年はグループ行動を取らせたので、協力性を培う面で効果があった。
- ・ 時間を守ったり、グループ行動の大切さがわかった。英語で質問したことにより外国人とコミュニケーションを取る楽しさを味わい、自信につながった。
- ・ 縦割り班での行動をきっかけに、学校内で異学年で遊んだり触れ合ったりする姿が多く見られるようになってきた。日々行われている英語活動において、今まで恥ずかしくてなかなか自分を表現しづらかった児童らが積極的に参加するようになってきた。
- ・ 集団行動が上手になった。
- ・ 縦割り班の班長を務める6年生にとっては4～5年生の面倒を見ることが大変であったように思う。最高学年としての責任感やリーダーシップの大切さを学んだ。
- ・ 低・中・高の3つの学年部でグループを編成した。そのため、下の学年に対して思いやりの心が育ち、リーダー性が育った。
- ・ あれだけ混雑した場所で集合時間の15:00に集まれるか心配したが、全グループが時間を守り集合できたことが素晴らしかった。また体調が思わしくない子を男女でカバーするなど協力する姿が見られた。集合時間を守ることやグループでの行動で注意すべきことが当日の行動でできていたので万博に参加できて大変よかった。生徒にとっては今後の生活に充分生かされるよい経験となった。
- ・ 外国の人を外見で判断してはいけないと考える生徒が増えた(変な先入観がなくなった)。国際赤十字のパビリオンを見学した生徒達は、自分達の知らない世界で起きている状況について「もっと知りたい」「自分達にできることはないか」と考えるようになった。
- ・ 事前学習から事後の活動まで班活動で行なったため、班における連帯意識が高まった。3年生は修学旅行の班行動にもいかすことができた。



〔12〕 見学後、児童・生徒に見られた変容(抜粋)ー⑤

授業や学校での活動に結びついた

- ・ 4年生以上の学年ではインターネット使って世界の国々や万博そのものについて調べる活動を行った。そのことでパソコン操作技能が高まり、インターネットで調べる活動が進んでできるようになった。
- ・ 7月に行われる野外学習の取り組みがより意欲的になった。発表会で普段おとなしい子も積極的に自分の発表をすることができた。
- ・ 愛知県館の「地球タイヘン大講演会」の内容が大変よく、子供達が地球温暖化について興味・関心を持った。世界の国々に目が向き、総合での「一人一国調べ」に興味を持って取り組めた。
- ・ 愛知万博に興味を持ち、見学後に万博のイベントに取り組む学級があった。児童の話聞いて万博関連事業に参加した家庭があった。理科の授業で、昆虫の体の仕組みの学習中に瀬戸・愛知県館の「森の劇場」のことが話題になった。
- ・ 英語活動を通して、会場内の外国人と積極的に会話する姿が見られた。英語の会話に自信を持つことができ、英語活動に活気が見られた。
- ・ 外国に興味を持ち、調べてみたいという気持ちを持った。万博で学んできたことをスピーチで紹介したため、話す力や聞く力が付いてきた。N I Eの活動で万博関連の記事を進んで切り抜き、意見交流が活発に行われた。
- ・ 外国の人についての会話や作文が増えた。国際理解や環境問題についての総合的な学習に深まり、広がりが見られた。
- ・ 外国の物事に対する関心が高まり、世界に目を向けるようになった。3年生は2年の国語で学習した「スーホの白い馬」のモンゴルについて理解を深めた(パオ、馬頭琴、服装など)。
- ・ 見学し感じたこと、考えたことを含めポスターセッションによる発表会を行ったことにより環境に対する興味や驚きだけでなく自分達で環境を守るためにできることを考え、取り組もうという態度が見られた。
- ・ 授業参観で見学時の絵を描いたが、自然や日本について保護者と話したり、思いを伝えたりする様子が見られた。ゴミの始末やボランティアの働きについて話し合う姿が見られるようになってきた。
- ・ 世界の様々な国々の文化や環境問題について地図帳やコンピューター等を使って更に深く調べようとするなど意欲的な学習態度が見られた。
- ・ 世界地図を開いて見学した国の位置を確認したり、新聞で関連記事を見つけ発表する子供がいた。リサイクルに対する関心が高まった。今も総合の学習でリサイクルについて調べている。環境やエネルギーに対する関心が高まった。
- ・ 長久手愛知県館の地球温暖化に警鐘を鳴らす講演を見学したため、自分達ができる取り組みは何かという問題意識を持ったことを作文から伺うことができた。
- ・ A L Tによる英語活動への取り組みが、意欲的になってきた。公衆道徳やボランティア活動を学んでいく中で、万博の体験を生かすことができている。
- ・ 「世界旅行を企画しよう」という単元のまとめで見学した国を入れ、更に詳しく調べて取り入れる生徒が多く見られた。理科の「植物の生活と種類」を環境問題と絡めて学習しようという姿勢が生まれてきた。「総合的な学習の時間」への取り組みがより意欲的になってきた。



〔12〕 見学後、児童・生徒に見られた変容(抜粋)ー⑥

授業や学校での活動に結びついた【続き】

- ・ 1回目（5／12）の様子を情報交換することで2回目（6／16）に、より人との触れ合い（特に外国の方々）を意識して見学することができた。小原歌舞伎を上演したり、和紙でふすまを作ったりした経験を通して地元小原への愛着心が高まった。環境に対しての関心が高まり、その後に行われた「環境整備活動」に熱心に取り組んだ。
- ・ バリアフリーについて調べるという課題を設定していたので、事後まとめ・発表をすることにより関心が高まってきた。触れ合いノートに地球環境や地球温暖化について書いてくる生徒がいた。改めて自然の叡知について意識するようになった。
- ・ 赤十字館の見学で感銘を受けた生徒がチャレンジタイムの時間に情報を収集し、募金活動をすすめた。地球環境について学習した3年生が総合的な学習時間に「宇宙船・地球号」（仮題）の劇を創作し、文化祭で上演し、全校生徒や地域の皆さんに環境保全を訴える予定である。

その他

- ・ 「サツキとメイの家」が見学できてラッキーだった。
- ・ ボランティアの方々、その他種々な方々の努力、がんばりによって会が運営されている中、小学生が優待されたことに感謝する声があったこと。
- ・ 各学年ごと6日間に分けて実施することで、マンモスの当日見学を可能にした。また1学年を6つのグループに分けることで、グローバルコモン6のパビリオンを多く見学できるようにした。子供達が体験したり、触れたりできる場所を事前に調べ、モリゾーキッコロメッセ（4月）を選択した。
- ・ 教室での会話が同じになった。
- ・ 見学ではないが、ナショナルデーにおける5・6年生の太鼓の演奏には講師の先生の指導の下、随分時間をかけて練習してきた。演奏をお祭り広場で行なった後の成成感には得がたいものがあった。
- ・ 見学後、まとめをしている中で万博見学が楽しく、有意義であったことは子供の発言や意見から理解できた。
- ・ 山間部の方が少ないところで生活しているので、公共施設や多くの人々と触れ合えたことが子供達の中ではいい思い出になったと言っている。低学年の子供は、外国の方と名刺交換をしたり、ロボットと話をしたことをうれしかったと言っている。
- ・ 世界的な催しを開催できたということで郷土愛、郷土意識に目覚めた。

